

学校教育の指導指針

令和7年 4月

羽咋市教育委員会



はじめに

学校教育における改革は、平成19年6月のいわゆる教育三法（学校教育法、地方教育行政法、教員免許法）の改正を受け、急激に行われてきました。また、平成23年度に学習指導要領が小学校で全面実施され、「生きる力を育む理念のもと、知識や技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成が重視」されるようになりました。そして、平成26年6月20日に公布された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとなりました。そこで、この機会をとらえて、従来の「羽咋教育ビジョン」の見直しを図ることとしました。

学校を取り巻く環境が激しく変化する現状の中で、羽咋市においても、子どもたちが9年間の義務教育課程を意図的な計画のもとで学校生活を過ごし、児童・生徒一人一人の個性の伸長と心身の成長が健全に育まれるよう努めてまいりました。羽咋市教育委員会としては、学校における教育活動が、教職員の共通理解のもと一丸となって取り組めるよう、「学校教育の指導指針」を改訂し、Hakuism DIVE 2.0を中心としたデジタルを活用した指導の在り方を示した「ICT活用の指導指針」とあわせ、より一層の充実に努めてまいります。

教育における「求められる子どもの姿」には、本質的には変わらないもの、時代の変遷とともに対応が求められるもの等があります。特に、ICT機器を効果的に用いた学びや英語教育の推進は、今後より一層加速することが予想されます。この時代の要請に応えながらも、羽咋市の全ての教職員に共通して求める基本的指導体制を構築し、新しい時代の学校教育の実現につなげ、学びの質の向上を図ってまいりたいと存じます。

羽咋市教育委員会

目 次

1	めざす子ども像	1
2	体系図	2
3	施策	3
4	指 針	3
	(1) 確かな学力をはぐくむ	3
	(2) 豊かな心をはぐくむ	5
	(3) 健やかな体をはぐくむ	5
	(4) 人材や体制をはぐくむ	6
	資料1 学習のきまり	7
	資料2 家庭学習の手引き	8
	資料3 学校で育てたい規範意識	9

1 めざす子ども像

第6次羽咋市総合計画（2021～2030）の中で、将来都市像として、「はぐくもう #はくいびと くらしてほっと きてほっと いざ！チャレンジ #HOT羽咋」を掲げています。また、教育に関する目標のひとつとして、「学びと安心を高め合う ひと・まちづくり」があり、本市の未来を切り拓く人材を育むため、学校教育の充実と次世代を担う児童・生徒の育成を重点に学校だけではなく、家庭・地域が連携して取り組まなければならないと考えられます。

「羽咋教育ビジョン」は、まず、平成18年に、めざす子ども像を「いきいきとした羽咋っ子」として作成されました。次に、平成20年に、基本目標を「家庭・学校・地域が協働する夢づくり・人づくり」として改訂されました。そして、平成22年4月に、基本目標を「家庭・学校・地域が協働する夢づくり・人づくり」、めざす子ども像を「夢をもち未来を拓く羽咋っ子」、めざす教師像を「豊かな人間性と確かな実践力を備え夢をもった教師」、めざす学校像を「家庭・地域とともに歩み保護者・地域に信頼される学校」として改訂されました。さらに、平成23年4月に、基本目標を「学校・家庭・地域が協働する“子育て共同体”づくり」、めざす子ども像を「未来を拓く心豊かな羽咋っ子」として改訂されました。

将来の羽咋市を担う子どもたちが、たくましく、豊かな心とたくましい体を備えて、確かな学力を身に付け、未来を自らの手で拓いていくために、学校・家庭・地域が協働して、“子育て共同体”づくりから進めていきます。

そこで、基本目標を以下のように引き継ぐこととしました。

■基本目標

学校・家庭・地域が協働する“子育て共同体”づくり

また、“子育て共同体”づくりのために、「信頼」「協働」「3あい」を基本方針にして、具現化を図っていきます。

「信頼される学校」を実現する

- *「保護者・地域から信頼される学校」とは
「児童・生徒が行きたくなる学校」
「保護者が通わせたいと思う学校」
教師が「学びつづける学校」である。

「協働」で生きる力をはぐくむ

- *「生きる力」をはぐくむとは
「確かな学力」「豊かな心」
「健やかな体」の3つの要素を
バランスよく培うことである。



「3あい」を推進する

- *「3あい」とは
「学びあい」(協同的な学習)
「鍛えあい」(切磋琢磨)
「育ちあい^{注1}」(自他の向上)
の3つである。

注1：互いに協力し、助けあい、励ましあうことによって、一人一人の自立を促し、さらに自他ともにたくましく向上できるようにする姿を目指すために、「助けあい」を「育ちあい」に変更した。

そして、これらを受け、めざす子ども像を以下のように継承することとしました。

■めざす子ども像

未来を拓く心豊かな羽咋っ子

- 未来の自分の姿を思い描き、その実現に向けてひたむきに努力する子ども
- 人にやさしく自分にきびしい、「思いやり」「規範意識」をもった子ども

2 体系図

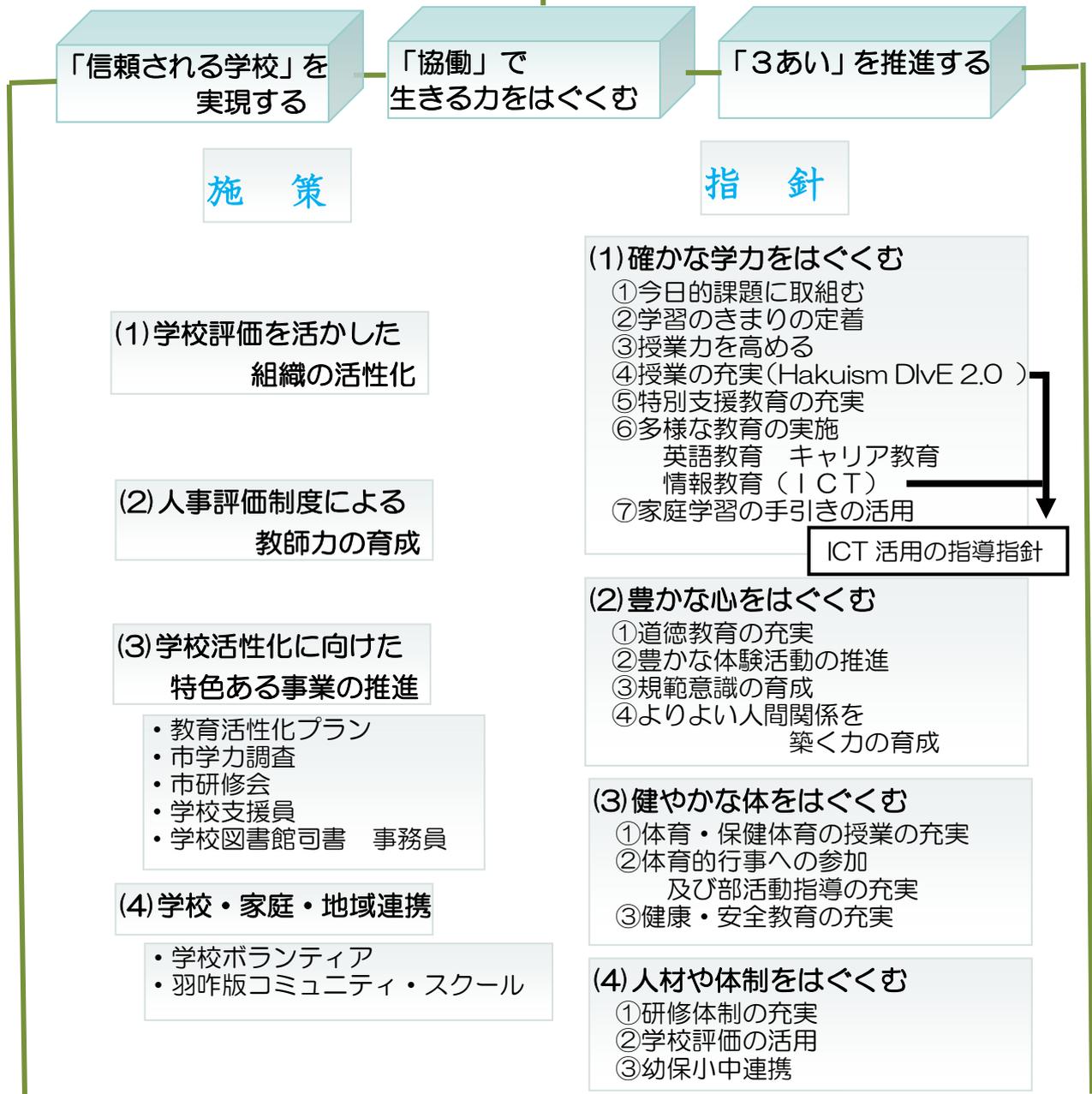
■めざす子ども像

未来を拓く心豊かな羽咋っ子

- 未来の自分の姿を思い描き，その実現に向けてひたむきに努力する子ども
- 人にやさしく自分にきびしい，「思いやり」「規範意識」をもった子ども

■基本目標

学校・家庭・地域が協働する“子育て共同体”づくり



3 施策

国・県とともに、羽咋市における施策を行い、教育活動の更なる活性化を図る。

(1) 学校評価を活かした組織の活性化

人材や体制をはぐくむために活用する。

(2) 人事評価制度による教師力の育成

目標管理書及び業績評価を活用する。

(3) 学校活性化に向けた特色ある事業の推進

○教育活性化プラン ○市学力調査 ○市研修会 ○Hakuism DIvE 2.0

(4) 学校・家庭・地域連携

○学校ボランティアの支援や協力を得る。

○羽咋版コミュニティ・スクールの導入

4 指針

(1) 確かな学力をはぐくむ

① 今日の課題に取り組む

ア 主体的・対話的で深い学びの実現

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、子供たち個々を理解して関わりながらねらいに迫るための工夫や子供たちから引き出した多様な考えを生かしながらねらいに迫るための工夫により「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

② 学習の決まりの定着

ア 「聞く」指導

聴きあう関係をつくる。

イ 系統的に成長した姿を希求

「学習の決まり」【資料1】をもとに、学校、学年を考慮して作成し、育ちあう姿を、成長にともない系統的に、組織的に共通理解して指導する。

③ 授業力を高める

ア 子どもを理解する

○アンケート等を使って、学習意欲を把握・高揚する。

○クロス集計を用いた学力調査の分析・対策などにより、学習における課題を把握する。

○帯タイム、放課後や長期休業を利用して、個に応じた指導をする補充学習の推奨。

イ 教材を理解する

○教材や資料の分析を的確に行い、ねらいに合った教材や資料を選択・開発したり活用したりする。

ウ 授業を構成する

○単元や各時間のねらいを明確にし、その達成にふさわしい展開や学習形態の工夫を行う。

エ 授業を実践する

○板書を構造化したり、発問・指示を適切に行ったりする。

○子どもの学習状況等に応じて臨機応変に対応できる。

○学習習慣や学習態度を育成する。

○学習環境を整備する。(ICT環境も含む)

④ 授業の充実

研究授業などで、組織として、目標の共有化、困難さの共有化、取組の共通理解、集団の効力感を増進する。

ア 「学習意欲」を高める授業をする

- 課題や発問を工夫する。
- 教材研究を十分に作る。
- 提示の仕方や内容を工夫する。

イ 「わかる 楽しい」授業をつくる

- ◎学級づくりを基盤として
 - ・子どもどうしが「認め合う」。
 - ・自己肯定感を高める。
- 既習を活かした発展的な学習を工夫する。
- 習熟度別少人数学習や学校支援員の活用

ウ 学び合う時間の確保

- 相手意識を持った学習を構築する。
- 配置、時間、形態（ペア、グループ、一斉）を工夫する。

エ 活用力を高める

- 発展課題の導入。
- 用語やキーワードを用いて文章作成。

オ 支援を要する子への配慮

- 児童理解など校内体制を確立する。
- インクルーシブ教育の視点を取り込む。
- ユニバーサルデザインの視点を取り込む。

カ Hakuism DIvE 2.0 の推進

- デジタル環境を整備し、デジタル教科書やその他デジタル教材を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。
- 学び方を学ぶコンテンツやデジタルドリルを活用した自律型学習の促進。
- 自分の考えを社会へ表現・発信する児童生徒の育成。

「ICT 活用の指導指針」

⑤ 特別支援教育の充実

ア 個に応じた支援体制の確立に努める

イ 交流授業などを通して、相互に社会参加の意識を高める

⑥ 多様な教育の実施

ア 外国語（英語）教育

- 小中学校における外国語（英語）教育を推進し、次世代の人材を育成する。
 - ・英検取得（小学6年生：5級、中学3年生：3級）の推奨

イ キャリア教育

- 羽咋市におけるキャリア教育

「学び・考え・具現化し、夢の実現へとつなげる取組」をより体験的なものとなるよう、羽咋市及び地域の事業者と連携し体系化したキャリア教育

○ねらい

一連の活動を通して、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる基本的・汎用的な能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力（レジリエンス力）、課題対応能力、キャリアプランニング能力）を育てる。

ウ 情報教育（ICT）

- 情報モラルをふまえた情報活用能力の育成
- 情報モラル教育の充実
- プログラミング的思考の育成

「ICT 活用の指導指針」

⑦ 家庭学習の手引きの活用

ア 「家庭学習の手引き」【資料2】をもとに、学校、学年を考慮して作成し、家庭での学習の習慣化や過ごし方の改善につなげる

(2)豊かな心をはぐくむ

① 道徳教育の充実

「自分自身」「人との関わり」「集団や社会との関わり」「生命や自然、崇高なものとの関わり」の視点で、「道徳」の時間を要として、学校全体の教育活動で構造化・体系化して取り組む。

ア 道徳的価値の自覚を高める授業実践

イ 授業展開の工夫

○基本型 ○モラルジレンマ ○再現構成法

○自らの考えを深め、考えさせる授業 ○自尊感情や自己肯定感を高める授業

ウ 心に響く資料の収集・心のノートの活用

エ ゲストティーチャー等による多様な人材・価値観の受容

オ 道徳の授業を地域に公開する。

② 豊かな体験活動の推進

ア ふるさと学習

○地域の人材活用を図り、地域の歴史（先人の偉業など）、文化、自然環境、産業などから体験的に学ぶ。

イ 社会に出るための体験の推奨

○社会の先人に学んだり、社会奉仕に関わる体験の場を設けたりする。

職業紹介及び疑似体験、先輩と語る会、職場体験（わく・ワーク体験）、校内外のボランティア活動

ウ 本物に触れる体験活動の充実

○文化、芸術、スポーツ等において、地域人材や国・県の事業を積極的に活用する。

○自然体験活動を充実させる。

③ 規範意識の育成

ア 学校で育てたい規範意識【資料3】

規範意識は、家庭で異なる場合があり、子どもの置かれている状況を把握し、個に応じた適切な指導を行う必要がある。

イ 家庭で育ててほしい規範意識

講演会やPTA懇話会等の機会を捉える。

○家庭での基本的生活習慣の育成 ○温かい家庭づくりの支援

④ よりよい人間関係を築く力の育成

ア 学級集団でコミュニケーション能力を育成する

○聴きとる ○自分の考えをまとめて適切に、理由をつけて言う ○意見の違いを認める

イ 人間関係力の計画的・意図的育成

○構成的グループエンカウンター ○ソーシャルスキルトレーニング

○Q-Uアンケートの活用

ウ 異年齢交流の促進

自主性・思いやり・協調性の涵養のため、縦割り班活動（遠足、清掃、体育的行事 文化的行事、挨拶運動等）、ピアカウンセリングの導入や異校種間交流等の実施

(3)健やかな体をはぐくむ

① 体育・保健体育の授業の充実

ア 体力向上プログラムの導入

○年間を通しての柔軟運動、走・投・跳及び筋力増強に取り組む。

- イ 運動領域別の強化
 - 体力・運動能力調査等の分析・対策をもとに取組む。
- ウ 指導者の資質向上
 - 指導方法、教材・教具の共有化
- ② 体育的行事への参加及び部活動指導の充実
 - スポチャレいしかわ、中体連、各種協会等の事業に積極的に参加する。
 - ア 指導体制の確立と指導計画の作成
 - イ 子どもの個性の伸長・バランスのとれた生活の確保
 - ウ 家庭・地域との連携 部活動地域移行の推進
 - エ 効果的な指導と指導力の向上
 - 科学的な指導内容 ○指導方法の研修
- ③ 健康・安全教育の充実
 - ア 保健教育の充実
 - イ 食育の推進・学校給食の充実
 - ウ 安全教育の充実
 - 「石川の学校安全指針」等の活用

(4)人材や体制をはぐくむ

- ① 研修体制の充実
 - ア 校内研修会の充実（○J Tの視点を取り入れる。）
 - 教職員の同僚性・協働性の育成 ○研究授業の推奨 ○基本的指導法の共通理解
 - イ 市研修会の積極的参加
 - 主任研修会 ○中堅教師研修会 ○若手教師研修 ○各担当連絡会
 - G I G A推進リーダー研修会 ○外国語推進教師研修会 ○特別支援教育研修会
 - ウ 資質向上への取組
 - 教育公務員としての教養を高める。
 - 職に対する強い情熱 ○教育の専門家としての確かな力量 ○総合的な人間力
- ② 学校評価の活用
 - 各評価を活かして、改善に取り組む。
 - ア 外部評価
 - 学校関係者評価 ○保護者等アンケート
 - イ 内部評価
 - 教職員による自己評価 ○子どもによる各種アンケート
- ③ 幼保小中連携
 - 基本的な生活習慣の定着、社会性の育成、学習習慣の連続性を目指して取り組む。
 - ア 幼保小連携
 - 活動の様子の確認 ○成長のための具体的手立ての共有化
 - 成長した子どもの活動の様子の確認 ○小学校へのスムーズな移行のための準備
 - イ 小中連携
 - 子どもの交流
 - 学校説明会、卒業生と語る会、部活動紹介、小中合同授業、小6 合同交流
 - 教師の交流
 - 出前授業、授業研修会への参加

【資料1】

学習のきまり

学ぶ子どもの姿	教師の手立て
<p><授業のスタート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員座っている。 ・ 服装や机の位置が整っている。 ・ 学習道具を準備している。 ・ 教科書を開いて、予習・復習をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科担任が座席表を持つ。 ・ しっかりできていなければやり直しをさせる。 (悪いものは絶対に認めない。) ・ 身なり、準備などしっかりできている子どもを評価し、認める。
<p><授業の導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までのふりかえりを確認する。 ・ 全員が本時の課題を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早く正確にできた子を認める。 ・ 書いた生徒から、挙手、起立などさせ、他の子どもや教師が確認できる方法をとる。 ・ 明瞭ではっきりした声を求める。 ・ 子どもの関心を引く導入に心掛ける。
<p><授業中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決を促す。 ・ 学び合う場を設定する。 全員に意思表示をさせる。 (ICT 機器等の利用) 考えを聞く、発表する時間を確保する。 (形態を工夫する。ペア・グループ・一斉) ・ 自分の学びを選択させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えたり書いたりする時間、交流する時間の確保に努める。 ・ 同意、疑問、反論など、大きな声で発表させる。 ・ 相手意識を持って、学び合いをさせる。 ・ 支持棒など、上手な説明の仕方を学ばせる。 ・ 挙手させ、しっかりと発言させる。 ・ 学び合う必要感や満足感のある展開に心掛ける。
<p><授業の終末></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まとめや振り返りを書き、できれば発表させる。 (自己評価、相互評価をする。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した用語を用い、比較したり、理由をつけたりして書かせる。

- ※ 授業開始 「起立」 「今から～を始めます。」 「礼」 「はじめます。」
「今日の課題は～です。」
- 授業終了 「起立」 「これで～を終わります。」 「礼」 「終わります」

【資料2】

家庭学習の手引き

	小 学 校			中 学 校		
	低学年	中学年	高学年	1年生	2年生	3年生
家庭学習のねらい	家でも学習する習慣を身に付ける。	自分から進んで学習する習慣を身に付ける。	自ら進んで課題を見つけ、学習する習慣を身に付ける。	計画的に家庭学習（予習・復習）をする。	計画的に家庭学習（予習・復習）をする。	計画的に家庭学習（予習・復習・3年間のまとめ）をする。
家庭学習の時間・留意点	30分以上	45分以上	60分以上	90分以上	90分以上	120分以上
	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、家庭学習の時間をクリアする。 各学校の状況に応じて、点検カード等を活用し、学校・保護者からの評価（励ましの言葉等）を返す。 			<ul style="list-style-type: none"> 毎日家庭学習する時間をクリアする。 計画を立て、家庭学習に取り組む。 その日にあった授業の教科書やノートを見返して復習をする。 塾や習い事がある日でも、宿題と不得意教科の予習だけはする。 		
家庭学習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> まず、必ず宿題をする。 宿題が終わったら、「宿題以外の家庭学習」をする。 「宿題以外の家庭学習」が終わったら、「その他の学習」をする。 			<ol style="list-style-type: none"> まず、必ず宿題をする。 宿題が終わったら、不得意教科を中心に予習・復習をする。（予習は、まず明日習うところの教科書を読むだけでもよい。） 予習・復習が終わったら、「宿題以外の家庭学習」をする。 「宿題以外の家庭学習」が終わったら、「その他の学習」をする。 		
宿題以外の家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルをする。 国語で学習したところなどを音読する。 計算カードか算数（計算）ドリルをする。 ひらがな、かたかな、漢字の学習をノートにする。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルをする。 国語で学習したところなどを音読する。 算数（計算）ドリルをノートにする。 漢字ドリルや教科書を見て漢字練習をノートにする。 理科・社会の習ったところをノートにまとめる。 活用問題（学んだ知識・技能を活用し、課題を解決する）に取り組む。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">6年生 高学年を中心とした学習のまとめを計画的に取り組む。</div>	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルをする。 国語は、学習したところまでの漢字・語句（難解語句・ことわざ・熟語）を計画的に練習する。 数学は、学習したところまでの問題を計画的に練習する。 英語は、学習したところまでの単語・基本文型の練習や教科書の音読練習を計画的にする。 社会・理科は、習ったところをノートにまとめる。単元が終わったらワークや問題集をする。 活用問題（学んだ知識・技能を活用し、課題を解決する）に取り組む。（筋道・根拠・字数制限など） 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">3年生 3年間のまとめの問題に計画的に取り組む。</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> 「宿題以外の家庭学習」を、毎日1つ以上する。（宿題が多いときは、宿題だけでもかまわない。） 「宿題以外の家庭学習」は、宿題と違うものをする。 					
その他の学習	<ul style="list-style-type: none"> 読書をする。 日記をつける。（あのね、できごと等） 	<ul style="list-style-type: none"> 読書をする。（電子図書を含む） 日記をつける。（時間割、できごと、がんばったこと等） 		<ol style="list-style-type: none"> 新聞を読む。（デジタル新聞を含む） 読書をする。（電子図書を含む） 生活ノートをしっかり書く。 		

【資料3】

学校で育てたい規範意識

育てたい規範意識		低 学 年	高 学 年	中 学 生
1	挨拶・返事をする	元気よく、自分から	明るく笑顔で、相手の顔を見て	時と場に応じて気持ちよく
2	時間を守る	チャイムや放送を守る	時計を見て、自分で考えて行動する	活動の意味や目的を理解し、余裕をもって行動する
3	約束・ルールを守る	約束・ルールを守って行動する	約束・ルールの意味を理解して行動する (情報モラル含む)	地域社会の一員としての意識を持ち、社会のルールやマナーを守って行動する (情報モラル含む)
4	迷惑をかけない	人がいやがることをしたり言ったりしない	相手の気持ちを考えて行動する	相手の立場や周りの状況を理解して行動する
5	過ちを素直に認める	悪いことをしたときは、正直に「ごめんなさい」と言う	悪いことをしたときは、正直に「ごめんなさい」と言い反省する	自分の過ちを謙虚に認め、今後の生活に活かす
6	感謝の気持ちを持つ	人に何かをしてもらったときは、「ありがとう」と言う	人に何かをしてもらったときは、気持ちを込めて「ありがとう」と言う	感謝の気持ちを言葉や態度で表す
7	親切にする	人に対してやさしい気持ちで接する	相手の立場を思いやり、やさしく接する	だれに対しても、思いやりの心を持ち、よりよい集団をつくろうとする
8	公正・公平な行動をとる (いじめをしない・止める・知らせる)	正しいと思うことを進んでしたり、言ったりする	ものごとの善悪を判断し、勇気をもって正しいことを行う	ものごとの善悪を判断し、差別や偏見なく行動する

羽咋市教育委員会「学校教育の指導指針」	平成28年	3月	策定
	平成30年	4月	一部改訂
	令和2年	4月	一部改訂
	令和3年	4月	一部改訂
	令和4年	4月	一部改訂
	令和5年	4月	一部改訂
	令和7年	4月	一部改訂